

MIST 学会 会員各位

2024年2月17日土曜日に北九州市小倉のパークサイドビルで第13回九州MIST研究会を開催いたしました。こういった研究会の運営は不慣れでしたが、関係者の皆様のご協力で何とか無事に開催することができました。

冒頭に行った若手医師および手術室スタッフ向けのコースでは福岡脊椎クリニック院長の隈元真志先生、JCHO九州病院整形外科診療部長の土屋邦喜先生にご講演いただきました。隈元先生にこれまで数々の病院で脊髄脊椎チームのリーダーを務めてこられたご経験をもとに低侵襲脊椎固定術における多職種連携についてご講演いただきました。土屋先生には内視鏡を用いた除圧術について動画をふんだんに盛り込んだスライドで分かりやすくご解説いただきました。その後、福岡青洲会病院整形・脊椎センター長の酒井翼先生にもインストラクターとして加わっていただき、ハンズオンセミナーを行いました。ハンズオンセミナーではLLIFやFenestrated screw、VBS、FESSなどの実際の器械に触れてもらいながら、手技の体験をしてもらいました。想定よりもかなり多くの先生、スタッフにご参加いただき、真冬にもかかわらず汗ばむほどの熱気で、大盛況でありました。

一般演題は11題発表があり、いずれも素晴らしい内容であり、活発な討議がなされました。Best Presentation Awardは『MRI T1強調画像で骨質を評価する-VBQスコアの有用性の検討』長崎労災病院整形外科の郷野開史先生が受賞されました。今後益々のご活躍を祈念しております。

特別講演Ⅰでは三楽病院整形外科部長・三楽脊椎脊髄センター長の中尾祐介先生に『成人脊柱変形を安全かつ適切に矯正するための工夫—骨粗鬆症症例や高度変形症例への挑戦—』をご講演いただきました。矯正固定術の治療計画について分かりやすく解説していただき、その後まさに圧巻の手術動画や術後レントゲンをたくさんご供覧いただきました。「手術の夢をみるくらい綿密に計画を立てれば、手術はうまくいく」というお言葉が特に印象的で、鮮やかな手術手技は事前の緻密な計画の賜物なのだと感じいたしました。特別講演Ⅱでは北須磨病院脊椎・腰痛センター副センター長の土方保和先生に『徹底解説、臨床経験を英語論文化するまでの道のり〜リサーチクエスションの作り方から論文執筆のTipsまで』をご講演いただきました。「臨床に研究のアイデア探しから英語論文化まで1時間で全てお話ししてほしい」とのむちゃぶりにも関わらず、とても分かりやすい解説で全て網羅していただき、とても引き込まれるお話でした。特に臨床研究にAIをどのように生かすかの具体策については目から鱗でございました。

本会は約50名の医師の参加があり、会全体ではスタッフも含めて70名超の参加でした。予想以上の参加者で、準備していた席が足りなくなってしまう、九州・沖縄地区のMISTの盛り上がりが私の想像の遥か上をゆくものであったことを実感いたしました。また共催及び展示、寄付等でご協力いただいた関係者の皆様には心よりの御礼申し上げます。

次回第14回九州MIST研究会は九州大学整形外科の幸博和先生が会長となり、2025年3月1日土曜日に福岡市での開催を予定しております。今回以上の皆様の参加をお待ちしております。

第13回九州MIST研究会 当番世話人 産業医科大学整形外科 山田晋司



